**第1号議案：2022年度事業報告**

**基本理念「この地球に住むすべての人々が人間として尊重され、自立し、良い環境の中で平和に暮らして行けることを願っています」**

**基本理念に基づき、今のアーシアンが担える役割と意義を確認しながら事業をすすめました。**

**Ⅰ．交流支援事業**

**パキスタン、ラオスへの支援を行いました。**

**１）パキスタン**

**アル・カイールアカデミー職業訓練所支援**

・縫製科の運営費を支援しました。2022年度分として本部より36万円を送金しました。

今後柏ショップより36,000円を支援する予定です。

・直接話を伺う機会がありませんでした。メールや日本ファイバーリサイクル連帯協議会（JFSA）からの報告で現地の様子を知ることになりました。洪水被害についてはJFSAか  
 らの報告をレターやホームページに共有しました。

・縫製科の女生徒の将来の職業選択の一つになるよう縫製工房と連携し商品開発を進めました。

・主催するオンライン交流会はできませんでした。

**２）ラオス**

**「セコン県農村部住民による共有資源の管理・利用支援プロジェクト」**

**NPO法人日本国際ボランティアセンター（JVC）支援**

・2021年10月より新規プロジェクトが開始され、引き続き支援を行いました。前現地代表よりプロジェクトの報告を受けました。

・生活クラブ虹の街と共催で定期総会に合わせて今井高樹代表理事による講演会「分断や紛争を生まない社会をつくるために」を開催しました。参加者45名、チラシによる新規入会は5名ありました。チラシとともに配布したJVCの「モノでの支援」封筒により763,591円を寄付しました。

・JVC国際協力カレンダーの販売に取り組みました。カレンダー販売の収益として７万  
円をラオスチームに寄付しました。

**Ⅱ．販売事業**

**１）アーシアンショップ柏**

**コロナ禍に加え、物価高騰や円安の影響などで厳しい経営環境は続きましたが、フェアトレードショップとして様々な活動に取り組みました。**

1. 取り扱い製品

・食品は定期的なアピールを行い、スキンケア製品では「フェアトレードの石鹸学習会」や「ヘナ講習会」を実施。下期には保湿クリームの研修を行いポップなどで良さを伝えました。

・食品、石鹸類の品揃えを見直しました。

２．ショップイベント

・9月には「ヘナ講習会」10月に「パレスチナ刺繍講習会」を開催し3年ぶりの集客イベントができました。また5月は「ココナッツフェア」7月は「夏に使いたい麻フェア」を実施しました。

３．キャンペーン・募金

・アル・カイールアカデミー縫製科支援金は36,000円となりました。

・アレッポ石鹸キャンペーンとして1,650円を寄付しました。

・9月からパキスタン洪水支援の店頭募金を開始しました。

４．生活クラブ虹の街関連

・千葉カタログへの掲載は、紙面縮小の影響が大きく売上金額が予算を大きく下回りました。デポー出展は予定通り16回行ない売上も好調でした。

・柏ブロックと連携し、「よってって松葉」の運営やイベントなどに全面協力するこで  
活性化に貢献できました。

・コミュニケーション広場として7月に「フェアトレードのせっけん学習会」を開催しま  
した。

５．その他関連団体、地域とのつながり

・3年ぶりに柏市民活動フェスタが2回開催され、開智国際大学大学祭にも参加しました。また新たに北柏地区の地域イベントにも参加し繋がりを持てました。

・JFSAのカルハナブラウスを引き続き販売しました。パキスタン洪水の際は、SNSと店頭でJFSAからの情報を拡散しました。

・外務省NGO相談制度を利用してJVCに講師を依頼し「パレスチナ刺繍講習会」を開催しました。ショップ顧客にパレスチナの現状やJVCの活動を知ってもらう機会となりました。

６．広報

・2年ぶりにショップ情報紙「アーシアンの風」を発行しました。

・SNSは引き続き担当者を置き、定期的な情報掲載を継続しました。

・地域情報誌「BE-COM」への記事掲載は3年目となり、地域への浸透が進みました。

・「パレスチナ刺繍講習会」の情報が外部媒体にも掲載されそこからの申し込みがありました。

７．店舗運営

・スタッフが1名加入しました。

・ミーティング内での商品研修の他、フェアトレード団体直営のショップを視察し店づくりの参考にすることができました。

**２）アーシアンちば**

１．アル・カイールアカデミー

・アル・カイールアカデミーの縫製工房と協働した商品の開発・販売を進めました。

目標としていた千葉カタログで「チリヤーストール」の販売に取り組みました。

（大２０枚、少４４枚　販売）

正規品としては販売できない製品が多数あったことなど、工房と共に解決しなくてはならない課題も見つかりました。

1. 生活クラブ虹の街関連

・センター・デポー展示会出展、デポーでの常設販売・注文販売、千葉カタログでの販売を引き続き行いました。デポー出展に力を入れ、計14回出展しました。商品を販売するだけでなく、商品の背景なども伝え、対話の中で活動のすそ野を広げられました。千葉カタログでは生産者情報を載せる努力をしました。

・虹色フェスタでは生産者としてフェアトレードの意義を伝えました。

1. BOX・地域

・毎年恒例となっているBOX・イベントは少しずつ対面に戻ってきました。地域でのイベントはアーシアンの理念や活動の意義を知ってもらうチャンスととらえ、販売が成り立たないと思われるものでも可能な限り参加しました。

・センター市原地区の定期販売会「やさしい堂」に毎月アーシアンの商品を置いてもらいました。

1. 外部学習会

・外部の展示会や学習会に参加し、知識を深め、学んだことを多くの人に伝えました。

1. キャンペーン

・「給食支援キャンペーン」64,000円、「アレッポの石鹸キャンペーン」28,350円を寄付できました。

1. その他

・千葉ブロックのコミュニティ「セカイチ」と共催で「渚シネマ」の映画上映を行いました。  
その際にアレッポの石鹸の共同代表の学習会を開催しました。

**Ⅲ　啓発・広報事業**

1. **啓発**

・「コミュニケーション広場」が再開し、生活クラブ組合員に活動の大切さを伝えることができました。

・生活クラブ虹の街との共催で「JVC講演会」を開催し、アーシアン会員や生活クラブ組合員にJVCの活動や国際情勢を知ってもらう有意義な機会となりました。

・外部イベントは対面が再開され、活動内容を伝えることができました。

・千葉ブロック「渚シネマ」との共催企画で上映後に講演会を行い、パレスチナ刺繍を取り扱う「タトリーズ」の方から現地のお話を聞く良い機会となりました。

**２）広報**

・レター

年３回（８月、11月、3月）発行しました。

紙面の充実を心掛け、会員の声を紙面に反映することが出来ました。

コロナ禍以降、世界で起きている事とレターの記事とがリンクすることが増え、今まで以上にレターの重要性を再認識しました。

レターのカラー化に関して、検討を続けました。

・ホームページ

一ヵ月毎にスタッフおすすめ商品を１年間掲載し、興味を持ってもらえるよう工夫しました。

総会後に行われたJVC今井氏の講演内容を掲載しました。

・生活クラブ情報誌「コルザ」は2回掲載しました。

生活クラブ組合員にアーシアンの活動を伝え協力を呼びかけました。

・フェイスブック・インスタグラム

　様々な人達から反応があり、活動を知ってもらうのに欠かせない手段であることを

実感しています。

**Ⅳ．関連団体との協力**

・生活クラブ、千葉グループ

　JVC講演会の共催、千葉カタログへの掲載等多岐にわたり協力をいただきました。

千葉ブロックのコミュニティ「セカイチ」と渚シネマを共催しました。

千葉グループの会議に出席しました。

・JFSA

　縫製工房の商品開発は引き続き連携を続けました。

　生活クラブ虹の街佐倉ブロック主催のJFSA報告会にオンラインで参加しました。

　カルハナ事業に協力し、柏ショップにて商品の販売を行いました

・JVC

　今井氏を招いて講演会を行いました。

　前現地代表よりラオス帰国報告を受けました。

　　　JVCが呼びかけ団体となった外務省要請文「イスラエル・ガザの停戦継続に向けて」について賛同しました。柏ショップにて「パレスチナ刺繍講習会」を実施しました。

　　　カレンダーの販売を行いました。

**Ⅴ　組織運営**

**１）理事会の開催と運営委員会、事業ミーティング**

・理事会・運営委員会・事業ミーティングはオンラインも含め予定通りに実施しました。

・運営委員会の議題提案方法について整理を行いました。

・事業ミーティングは販売ミーティング、レター編集会議が実施されました。

**２）会員拡大と仲間作り**

・個人会員期首　343名　期末　338名

・JVC講演会にて5名の会員加入が得られました。

・虹の街脱会者のアーシアン会員脱会の取り扱い方法を整理、確認を行いました。

・団体会員8団体、期末8団体、団体加入はありませんでした。

・運営スタッフは1名増えましたが、依然として人手の不足が続いている状態です。